

Enable AI Foundry

2025年11月26日

INDEX

- 01. 設立趣旨
- 02. Enable AI Foundryとは
- 03. EAFの取り組みについて
- 04. テーマのご紹介
- 05. 会員制度のご案内
- 06. まとめ

設立趣意

AIは人々の創造性や生産性を飛躍的に高める可能性を秘めていますが、その実現には膨大な計算資源が必要であり、またインターネットを社会に浸透させたスマートフォンの役割を担うAIハードウェアもまだ存在しません。経済安全保障上の懸念でもある他国依存の状況において、日本の個々の組織がAIに投資できるリソースはグローバルでの競争の中では桁が足りないのも事実です。さらに地域分散しているAIの取り組みは資金・経済的に成長スパイラルが回る規模感を持ちにくい構造となっています。

また、その様な状況においても組織内にてAIを積極的に利活用していく心理・認知の障壁も多く、国産・国内環境の構築、理解を拡げていく教育活動、個人の組織外での知見獲得と組織内への知見共有が急務です。

AIに取り組む個人・企業・行政・教育機関などが計算資源・学習機会・データ蓄積及び整備手段・実証フィールド・人的ネットワーク・営業機会を協同基盤として利用可能な環境と真摯にAIに取り組む方々の集える場を構築し、日本各地での提供をアライアンスの第一歩として活動を開始します。

設立趣意

AIは人々の創造性や生産性を飛躍的に高める可能性を秘めていますが、その実現には膨大な計算資源が必要であり、またインターネットを社会に浸透させたスマートフォンの役割を担うAIハードウェアもまだ存在しません。

経済安全保障上の懸念でもある他国依存の状況において日本の個々の組織がAIに投資できるリソースはグローバルでの競争の中では桁が足りないのも事実です。

設立趣意

さらに地域分散しているAIの取り組みは資金・経済的に成長スパイラルが回る規模感を持ちにくい構造となっています。

また、その様な状況においても組織内にてAIを積極的に利活用していく心理・認知の障壁も多く、国産・国内環境の構築、理解を広げていく教育活動、個人の組織外での知見獲得と組織内への知見共有が急務です。

設立趣意

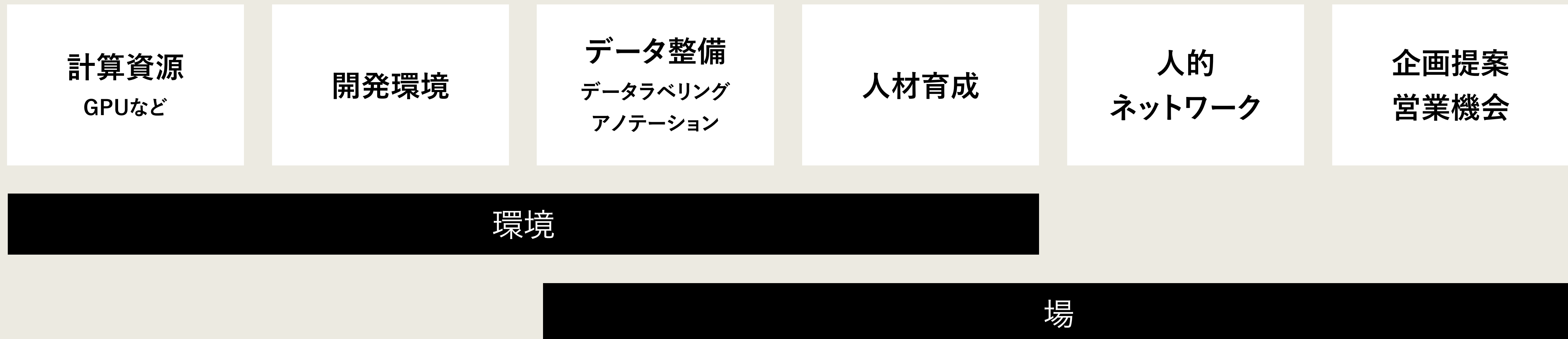
AIに取り組む個人・企業・行政・教育機関などが
計算資源・学習機会・データ及び整備手段・実証
フィールド・人的ネットワーク・営業機会を協同基盤と
して利用可能な環境と真摯にAIに取り組む方々の集える
場を構築し、日本各地での提供をアライアンスの第一歩
として活動を開始します。

Enable AI Foundryとは

AI Foundry（AIファウンドリー）とは、AIの開発や活用を可能にする協同基盤環境のことです。

「ファウンドリー」は元々「鋳造所」を意味し、我々はソフトウェアはもちろん、AIハードウェアも含め「AIを生み出し、形作る場所」という意図を持って用いています。

具体的には、AIモデルの開発・訓練・デプロイに必要な計算資源（GPUなど）、開発環境、データ整備（データラベリングやアノテーション）、人材育成、人的ネットワーク、AI活用の企画提案などを総合的に共有・活用できる環境を指します。



環境（アライアンス）

名称をEnable AI Foundryとします。
2025年11月26日にアライアンスとして
設立致しました。
構成員の専門領域リソースの拠出により
環境整備に取り組めます。

ENABLE
AI FOUNDRY

アライアンスロゴ

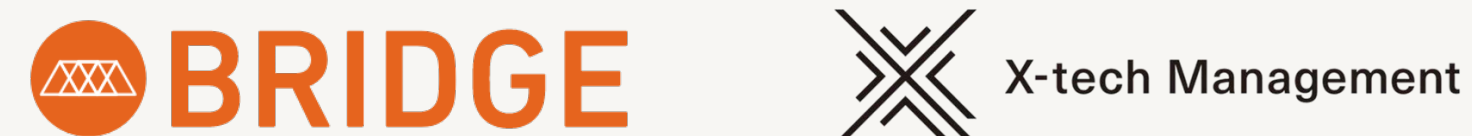
EAF

略称ロゴ

構成員



事務局



場（活動拠点）

活動拠点を**Enable AI BASE**と称し、
大阪・京都・福岡・沖縄から
順次展開します。人材育成、
人的ネットワーク形成、企画提案の
創発拠点として構築します。

ENABLE AI / BASE



📍 大阪
Blooming Camp（さくらインターネット株式会社）



📍 京都
学校法人 瓜生山学園 京都芸術大学



📍 福岡
Fukuoka Growth Next



📍 沖縄
SAKURA innobase OKINAWA
（さくらインターネット株式会社）

主な取り組み

環境と場を活かしたプロジェクト、イベント、オウンドメディアが主な取り組みとなります。

プロジェクト

プロジェクトの取り組みプロセスとテーマ例でご説明します。

イベント

Enable AI BASEを開催場所として隔週程度での勉強会や取材会、マッチングを実施予定

オウンドメディア

地域のスタートアップや個人の取り組み
企業や行政での実践的な取り組み
技術試用レポート
イベントレポート

主な取り組み

環境と場を活かしたプロジェクト、イベント、オウンドメディアが主な取り組みとなります。

プロジェクト

プロジェクトの取り組みプロセスとテーマ例でご説明します。

イベント

Enable AI BASEを開催場所として隔週程度での勉強会や取材会、マッチングを実施予定

オウンドメディア

地域のスタートアップや個人の取り組み
企業や行政での実践的な取り組み
技術試用レポート
イベントレポート

5つのドメイン

LIFE

くらす：日常の振る舞いがナチュラルになるAI

LEARN

まなぶ：学びと育みがパーソナライズされるAI

MAKE

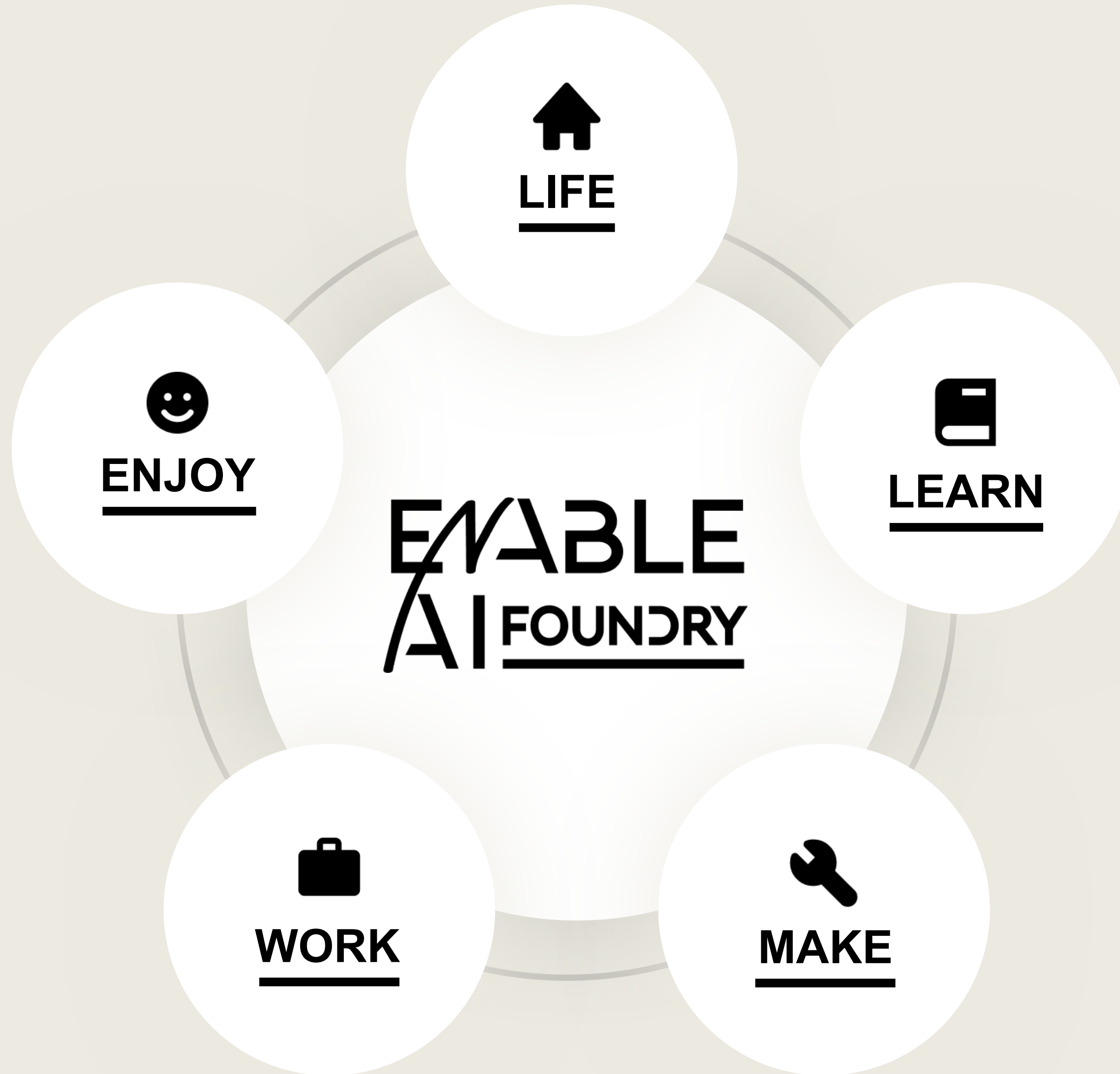
つくる：人との関係をリデザインしたモノ x AI

WORK

はたらく：生産性にブレークスルーを起こすAI

ENJOY

たのしむ：クリエイティブをアンロックするAI



- ① **アウトカムを構想**
テーマオーナーが実現したい状態の言語化
- ② **アウトプットを設定**
テーマオーナーと事務局にて実装目標の設定
- ③ **アクティビティの見積**
事務局にて目標達成に向けた期間・予算の見積
- ④ **アクティビティの提案**
事務局にて構成員や会員とのマッチングや実施提案
- ⑤ **アクティビティの実施**
事務局にて進行管理とテーマオーナーへ進捗共有
- ⑥ **アセスメントの実施**
テーマオーナーと事務局にてアウトプットの
アセスメントを実施
- **インプット（ドメイン・プロジェクト横断）**
アクティビティの質の向上に向けた学びの機会を創出
オウンドメディア・イベントにて協同できるネットワークを拡大



10プロジェクト 5ドメイン x 2テーマ（アウトカム&アウトプット）

ドメイン	アウトカム	アウトプット	テーマオーナー
くらす	プライバシーに配慮した心理的安全性と利便性の高い生活環境	セマンティックカメラ by CE-LLM 「AIRTIPS」次世代バージョンによる画像・映像記録を残さず事象のみを通知・記録するデバイス（セマンティックカメラ）の開発とユースケース実証ハッカソン等によるアプリケーション/ユースケースの共同開発の実施	シャープ
	留学生の学びの摩擦を減らし、学生生活がスムーズに送れる環境	留学生のAIバディ 「Neighbuddy」による留学生・日本人学生、教職員の多言語・異文化コミュニケーションサポートエージェントの開発とユースケースの実証	クロステック・マネジメント
まなぶ	興味関心の喚起により学びの幅を拡げ、それらの関連付けにより事象や構造の理解が深まり、新たな学びの意欲が湧く状態	学びのAIバディ 「Neighbuddy」による学びと興味の動的な関連付けによるメタ認知・抽象推論・文脈保持向上の実証	クロステック・マネジメント
	学生・教員がプライベート環境で国産含めた多様なモデルを選択可能なPersonal Knowledge AIを使える環境	Personal Knowledge AI（Notebook AI） 学生・教員が共有可能な個人の資料・ノート・各種データ形式から文脈を理解し、要約・検索・関連付け・思考整理を支援する学習特化型Personal Knowledge AI環境の構築と実証	クロステック・マネジメント
つくる	利用者や現場ごとの目的に合わせて、ロボットの見た目・ふるまい・知能を柔軟にカスタマイズし、試作から実運用まで回せる状態	カスタマイズできる汎用AIロボット 「Mi-Mo」による複数AIモデルとマルチモーダル入力により自律的に考え行動するロボットのカスタマイズ実証	Jizai
	人とデジタル環境の関わり方が再設計され、日常の中で自然に寄り添うパーソナルAI体験が継続的に享受できている状態	AIネイティブ端末 AIを前提とした次世代パーソナル端末アーキテクチャの実証	Jizai
はたらく	日々変化する業務情報から能動的に新たなインサイトを得られる状態	企業向けAIエージェントのノーコード開発環境 「miibo」による企業内AIエージェントのノーコード実装による多様なインサイト獲得の実証	miibo
	映像情報と事象情報をエッジAIとクラウドAIの組み合わせで自動的に業務に適した連携が行われる状態	ボディカメラの応用 ボディカメラにおけるエッジAIとクラウドAIの組み合わせによるプライバシー保護、コスト効率、現場実装の容易性の実証	シャープ
たのしむ	日常の記録を感情と組み合わせて自然に家族や友人それぞれに適した内容で共有が出来る状態	ハンズフリージャーナリング AIスマートリンクを使った『ジャーナリング（日記）＋ソーシャルメディア』エージェントの開発とユースケースの実証	シャープ
	言語、地域、風習、技法、歴史的事実を踏まえて網羅的にアジア美術史に関する知識にアクセスできる環境	多言語アジア美術史特化モデル 西洋美術に閉じない作品との出会いを促すアジア美術史特化LLMの構築と検証並びに多言語・多地域データセットの質、量、多様性の分析と評価	京都芸術大学

LIFE くらす

アウトカム

プライバシーに配慮した心理的安全性と利便性の高い生活環境

アウトプット

セマンティックカメラ by CE-LLM

「AIRTIPS」次世代バージョンによる画像・映像記録を残さず
事象のみを通知・記録するデバイス（セマンティックカメラ）
の開発とユースケース実証ハッカソン等によるアプリケーション/
ユースケースの共同開発の実施

テーマオーナー

SHARP

アウトカム

留学生の学びの摩擦を減らし、学生生活がスムーズに送れる環境

アウトプット

留学生のAIバディ

「Neighbuddy」による留学生・日本人学生、教職員の多言
語・異文化コミュニケーションサポートエージェントの開発
とユースケースの実証

テーマオーナー

 X-tech Management

LEARN まなぶ

アウトカム

興味関心の喚起により学びの幅を拡げ、それらの関連付けにより事象や構造の理解が深まり、新たな学びの意欲が湧く状態

アウトプット

学びのAIバディ

「Neighbuddy」による学びと興味の動的な関連付けによるメタ認知・抽象推論・文脈保持向上の実証

テーマオーナー



アウトカム

学生・教員がプライベート環境で国産含めた多様なモデルを選択可能なPersonal Knowledge AIを使える環境

アウトプット

Personal Knowledge AI（Notebook AI）

学生・教員が共有可能な個人の資料・ノート・各種データ形式から文脈を理解し、要約・検索・関連付け・思考整理を支援する学習特化型Personal Knowledge AI環境の構築と実証

テーマオーナー



ドメイン

MAKE つくる

アウトカム

利用者や現場ごとの目的に合わせて、ロボットの見た目・ふるまい・知能を柔軟にカスタマイズし、試作から実運用まで回せる状態

アウトプット

カスタマイズできる汎用AIロボット

「Mi-Mo」による複数AIモデルとマルチモーダル入力により自律的に考え行動するロボットのカスタマイズ実証

テーマオーナー

Jizai

アウトカム

人とデジタル環境の関わり方が再設計され、日常の中で自然に寄り添うパーソナルAI体験が継続的に享受できている状態

アウトプット

AIネイティブ端末

AIを前提とした次世代パーソナル端末アーキテクチャの実証証

テーマオーナー

Jizai

WORK はたらく

アウトカム

日々変化する業務情報から能動的に新たなインサイトを
得られる状態

アウトプット

企業向けAIエージェントのノーコード開発環境

「miibo」による企業内AIエージェントのノーコード実装によ
る多様なインサイト獲得の実証

テーマオーナー



アウトカム

映像情報と事象情報をエッジAIとクラウドAIの組み合わせで
自動的に業務に適した連携が行われる状態

アウトプット

ボディカメラの応用

ボディカメラにおけるエッジAIとクラウドAIの組み合わせによ
るプライバシー保護、コスト効率、現場実装の容易性の実証

テーマオーナー



Theme

ドメイン

ENJOY たのしむ

アウトカム

日常の記録を感情と組み合わせて自然に家族や友人それぞれに適した内容で共有が出来る状態

アウトプット

ハンズフリージャーナリング

AIスマートリンクを使った『ジャーナリング（日記）＋ソーシャルメディア』エージェントの開発とユースケースの実証

テーマオーナー

SHARP

アウトカム

言語、地域、風習、技法、歴史的事実を踏まえて網羅的にアジア美術史に関する知識にアクセスできる環境

アウトプット

多言語アジア美術史特化モデル

西洋美術に閉じない作品との出会いを促すアジア美術史特化LLMの構築と検証並びに多言語・多地域データセットの質、量、多様性の分析と評価

テーマオーナー



学校法人 瓜生山学園
京都芸術大学

主な取り組み

環境と場を活かしたプロジェクト、イベント、オウンドメディアが主な取り組みとなります。

プロジェクト

プロジェクトの取り組みプロセスとテーマ例でご説明します。

イベント

Enable AI BASEを開催場所として隔週程度での勉強会や取材会、マッチングを実施予定

オウンドメディア

スタートアップ未満の地域の個人の取り組み
企業や行政での内部的な取り組み
技術試用レポート
イベントレポート

主な取り組み

環境と場を活かしたプロジェクト、イベント、オウンドメディアが主な取り組みとなります。

プロジェクト

プロジェクトの取り組みプロセスとテーマ例でご説明します。

イベント

Enable AI BASEを開催場所として隔週程度での勉強会や取材会、マッチングを実施予定

オウンドメディア

スタートアップ未満の地域の個人の取り組み
企業や行政での内部的な取り組み
技術試用レポート
イベントレポート

会員制度

構成員とは別にテーマ単位で参加を検討いただける個人・法人会員制度の開始について
2026年2月を目処に準備を進めております。



EAF News Letter（会員募集やイベントのお知らせなどはこちらから）

<https://eaf.thebridge.jp/contact>

我々は会員からのテーマを募集など**構成員だけに閉じない活動**を行います。

先んじて、この後発表させていただくSHARPによる**セマンティックカメラ by CE-LLM**の
オンラインハッカソンへの参加募集を実施いたします。